

小倉隆一郎先生のご退職に当たって

会沢 信彦

小倉隆一郎先生は、2006（平成18年）年4月、田村徹先生の後任として、教育学部心理教育課程に就任されました。本稿では、小倉先生について、私見を交えて、3点にわたって思い出を述べたいと思います。

1つめは、教員としての先生についてです。

先生は、主に心理教育課程の学生に対して、「音楽」「器楽表現基礎」「器楽伴奏法」「保育内容」などの講義を担当されました。ゼミ（卒業研究、専門演習）では、主に音楽に関係したテーマについて学生を指導されました。小倉ゼミに所属する学生は、先生同様、穏やかなタイプの学生が多かったように思います。

幼児教育・保育現場における音楽といえばピアノが思い浮かびますが、歌を中心とするさまざまな保育技術も忘れてはなりません。「保育内容」の授業は13号館3階の保育実習室やプレイルームで行われることが多いのですが、小倉先生の授業では、学生の歌と歓声が廊下に響き渡るのですぐに分かりました。

心理教育課程の謝恩会では、しばしばスピーチ代わりに手遊び歌を披露してくださいました。もちろん学生は大盛り上がりです。小倉先生の次の先生はさぞスピーチがしにくかったことと思います。

2つめは、同僚としての先生についてです。

先生は、余程のことがない限り、頼まれた仕事に対して「ノー」とおっしゃることはなかったように思います。置かれた事情を察し、「承知しました」とお引き受けくださることが常でした。私は課程長として2年間お世話になりましたが、先生にどれほど助けられたかしれません。

また、課程会議をはじめとする会議では、先生は聞き役に回ることが多いのですが、発言が途切れたときや、議論が煮詰まったときには、必ずといって良いほど発言されました。もちろん、強引に自説を主張されるのではなく、客観的に見てご自身の意見がふさわしくないと判断されると、すぐに撤回される潔さもお持ちでした。やはり課程長として、会議で先生に助けられたと感じることがたびたびありました。

3つめは、音楽家としての先生についてです。

心理教育課程では、毎年（今年度のみ中止）、藍蓼祭の日に教室を借り、その年の3月の卒業生に案内を出して、「ホームカミングデー」を実施しています。ある年のホームカミングデーの担当は、前年度の幼児心理教育コース4年生の担任であった小倉先生でした。先生は、これまでのスピーチと歓談を中心としたプログラムを変え、会場に電子ピアノを持ち込み、卒業生有志とのミニコンサートを開かれたのです。最後の1曲は、先生ご自身による「アナと雪の女王」主題歌の演奏でした。私を含め、心理教育課程の教員（と参加した卒業生）が、初めて音楽家としての小倉先生に触れた瞬間でした。そこにいた者が皆、水を打ったように先生の演奏に聴き惚れたのは言うまでもありません。

ところで、先生と私の共通点として、「大学に出勤する時間が早い」ことが挙げられます。朝8時頃、小倉先生の研究室の前を通ると、美しいピアノの調べが聞こえてくるのがよくありました。私はつい立ち止まり、ドア越しに聞こえる先生の演奏に聴き入ってしまうのが常でした。

実は、先生の演奏は、YouTubeでも公開されています。ぜひお聴きになられてください。

このように、いつも穏やかなまなざしで15年間私たちとご一緒して下さった小倉先生と大学でお目にかかれないのは寂しいのひと言です。しかし、これからもお元気で外から私たちを見守ってくださることを願い、先生への感謝の言葉といたします。

(あいざわ のぶひこ 文教大学教育学部発達教育課程・心理教育課程長)